

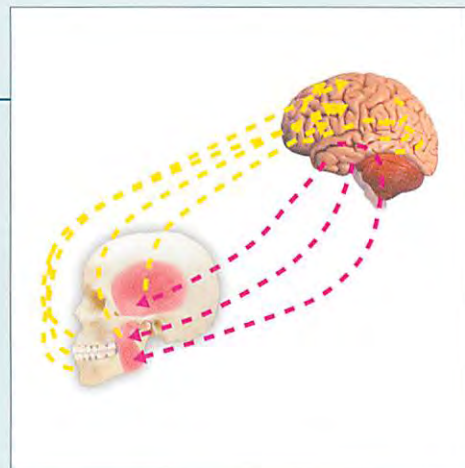
第1回 顎口腔システム

荒谷昌利

埼玉県開業 荒谷デンタルクリニック
連絡先：〒344-0061 埼玉県春日部市粕壁1-9-46

Part1. Stomatognathic System

Masatoshi Araya



連載開始にあたって——A Prelude To Bioesthetic Dentistry

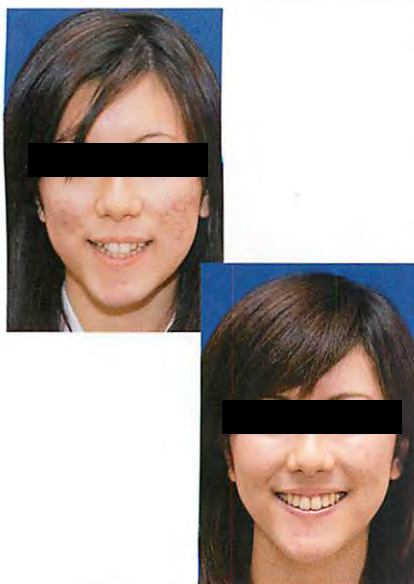


図1,2 著者の症例. 術前(2006年3月)と術後(2008年8月).



図3,4 Dr. James R. Bensonの症例. 術前(2001年12月)と術後(2003年1月).



図5,6 Dr. James R. Bensonの症例. 術前(1995年)と術後(2005年).

連載のはじめに、まず、これから6回に分けて紹介させていただく Bioesthetic Dentistry で咬合治療を受けた患者の術前・術後の顔写真を3例呈示する(図1~6)。これらの症例は、患者の主訴が口腔内に留まらず、顔面頭頸部にまで及ぶ慢性疼痛、機能障害に悩まされ続けたという点で共通している。術前に認められた眼の周囲や頬の顔面表情筋の緊張が術

後には消退し、リラックスした術後の笑顔に気付かれたのだろうか。これらの患者は何から解放され、体の中の何が変わったのだろうか。

筆者がこのような患者の咬合治療の指針としている「生物学的・システム論的視点から咬合を捉える“Bioesthetic Dentistry”」について、そのエッセンスを抽出して解説してみたい。